

I 研究主題

思考力を育む国語科指導の研究 ～ 説明的な文章において、思考を深める言語活動の工夫を通して ～
--

II 主題設定の理由

子どもたちの国語力低下が問題視されている。OECDのPIISA調査など各種の学力調査の結果によると、我が国の児童生徒においては、「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題があり、中でも読解力では成績分布の分散が拡大している」などの指摘がなされている。2009年実施の調査によると、読解力の順位的な数値は回復してきているものの、依然として基礎的なデータ情報を解釈したり、自分の知識・経験に結びつけて考えたりする力が弱いという結果が示されている。

このような現状を受けて新学習指導要領が改訂され、新しい国語科の方向性が示された。その中に、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力」をはぐくむことを重視すると書かれた文がある。このことは、文章を的確に読み取った上で筋道を立てて思考し、表現する力をつけるということである。つまり、適切に表現し、正確に理解する力を基盤とし、思考力や表現力を養うことが求められているのである。

本校の児童の「思考力」「表現力」を見てみると、我が国の実態と重なっているところが実に多い。CRT学力調査や全国学力調査の結果を分析してみると、記述式問題での無回答率の高さや筋道立てて思考し表現する力の乏しさが浮き彫りになった。

このような実態を踏まえ、本校では昨年度から三か年計画の国語科の研究を進めている。昨年度は、思考力や表現力の基盤となる「的確に読み取る力」を育むための研究を、説明的な文章の指導を中心として行ってきた。児童の確実に読み取る力を高めるための指導法について究明し、一定の成果を上げてきたところである。この研究を土台として、本校の課題点でもあり、現在の国語科教育の一つのねらいである「思考力」を育む研究へとつなげようと考えた。

では、説明的な文章で育てる「思考力」とは、どんなものだろうか。

新学習指導要領には、「論理的に思考し」という文言がある。説明的な文章は、筆者が具体的な事実や事例、実験や観察の結果などを並べながら、自分の意見や主張、考察を分かりやすく述べる、論理的に書かれた文章である。その論理性について考えさせることが、説明的な文章の指導において育てる「思考力」ではないだろうか。つまり、文章の表現の仕方や論述の仕方を的確に理解した上で、筆者の考え等に迫り、自分の考えを持つことができるようにするのである。

自分の考えを持つということは、自ずとそれを伝えることが必要となってくる。誰かに伝えることで、思考の道筋が明らかになり、深まりが生まれる。これは、新学習指導要領において重視されている「伝え合う力」を高めることにつながる。

本研究においては、説明的な文章の指導において文章の書き方や述べられ方を理解した上で、筆者の考え等に迫り、児童一人ひとりに自分の考えを持つことができるようにすることで思考力を育み、それを伝え合う言語活動によって思考力を深めることをねらいとし、本主題を設定した。

III 研究目標

国語科の説明的な文章の指導において、文章の表現の仕方や構成の工夫を的確に理解した上で、筆者の考え等について思考し、考えたことを伝え合う言語活動を充実させることで、児童一人一人に思考力を育むことをねらいとする。

IV 研究の概要

1 研究の仮説

[仮説1] 国語科における説明的な文章の指導において、文章の表現の仕方や構成の工夫を的確に理解した上で、筆者の考え等に着目し、それらについて説明したり対話したりする学習活動を展開すれば、思考力の育成につながるであろう。

[仮説2] 日常指導の中で、言語力を高める場を設定することで、言葉や読み取りに対する力が高まり、思考力の向上につながるであろう。

2 研究の内容

(1) 仮説1「思考力の育成」について

- 文章表現や文章構成の工夫に着目し、筆者の考えを捉える学習指導の展開についての理論研究
- 学年・学年部における教材分析や発問研究
- 思考力の系統化と指導方法の明確化

(2) 仮説2「言語力を向上させる手立て」について

- 辞書の活用（3年生以上の児童全てにおいて）
- 音読の時間の充実
- 説明的文章指導における具体的指導事項や用語についての視覚化

3 研究の進め方

(1) 国語科の指導法の改善に関わる研修を主題研究として実施する。

(2) 本研究は3カ年計画で実施し、本年度は2カ年目となる。

(3) 本年度は、説明的な文章において論理的思考力を育むための理論研究・授業研究に取り組む。

(4) 本年度の研究においては、国語科における授業力向上を目指すことを目的としていることから、班別研究会を組織せず、全体研究会、学年部別研究会、研究推進委員会によって研究組織を構成することとする。

(5) 主題研究に関わる授業は以下のように行う。

6月	研究授業 I	低中高1本ずつ。
11月	研究授業 I	研究授業 I をうけた授業。低中高1本ずつ。

V 研究主題・副題の文言について

1 「思考力」とは

本研究では、説明的な文章において思考力を育むことをねらいとしている。説明的な文章においては、内容読解の他に、文章の構成や書かれ方、筆者の考え等についても読み取っていくことを目標としている。説明的な文章は、読者に分かりやすく伝えるために筆者が構成や文章の書き方、自分の意見の伝え方等を工夫して書かれた文章である。そのような筆者の意図に迫り、文章の構成や書かれ方、筆者の考え等に注目させ、それらについて自分の考えを持つことが説明的な文章において育む思考力であると捉えることにする。そこで、思考力を以下のように定義した。

○ 文章の表現の仕方や構成の工夫、筆者の考え等について気付き、自分の考えを持つ力

具体的には、

- 文章を読み、文章の構成や、文や段落の役割等に気付く。
- 文章を読み、筆者の表現の仕方の工夫や筆者の考え等に気付く。
- 文章を読み、書かれている物事や書かれ方、筆者の考え等について自分の考えを持つ。

などといったことを思考させていくことにする。

また、各学年において育む思考力を大まかには以下のように系統化することとした。

育てる思考力		
六 年	筆者のものの見方と自分の考え方を比べながら読むことができる。	
五 年	文章を読んで、挙げられている例や根拠から、筆者の意図をつかむことができる。	
四 年	段落相互には、さまざまな関係があることを知り、段落の役割をとらえて、目的に応じた内容の要約ができる。	
三 年	段落の働きを知り、「はじめ・なか・終わり」の大きな構成と、段落ごとの中心を把握することができる。	
二 年	順序に沿って読み、内容をとらえることができる。	
一 年	語や文のまとまりが分かり、書かれていることの大体をとらえることができる。	

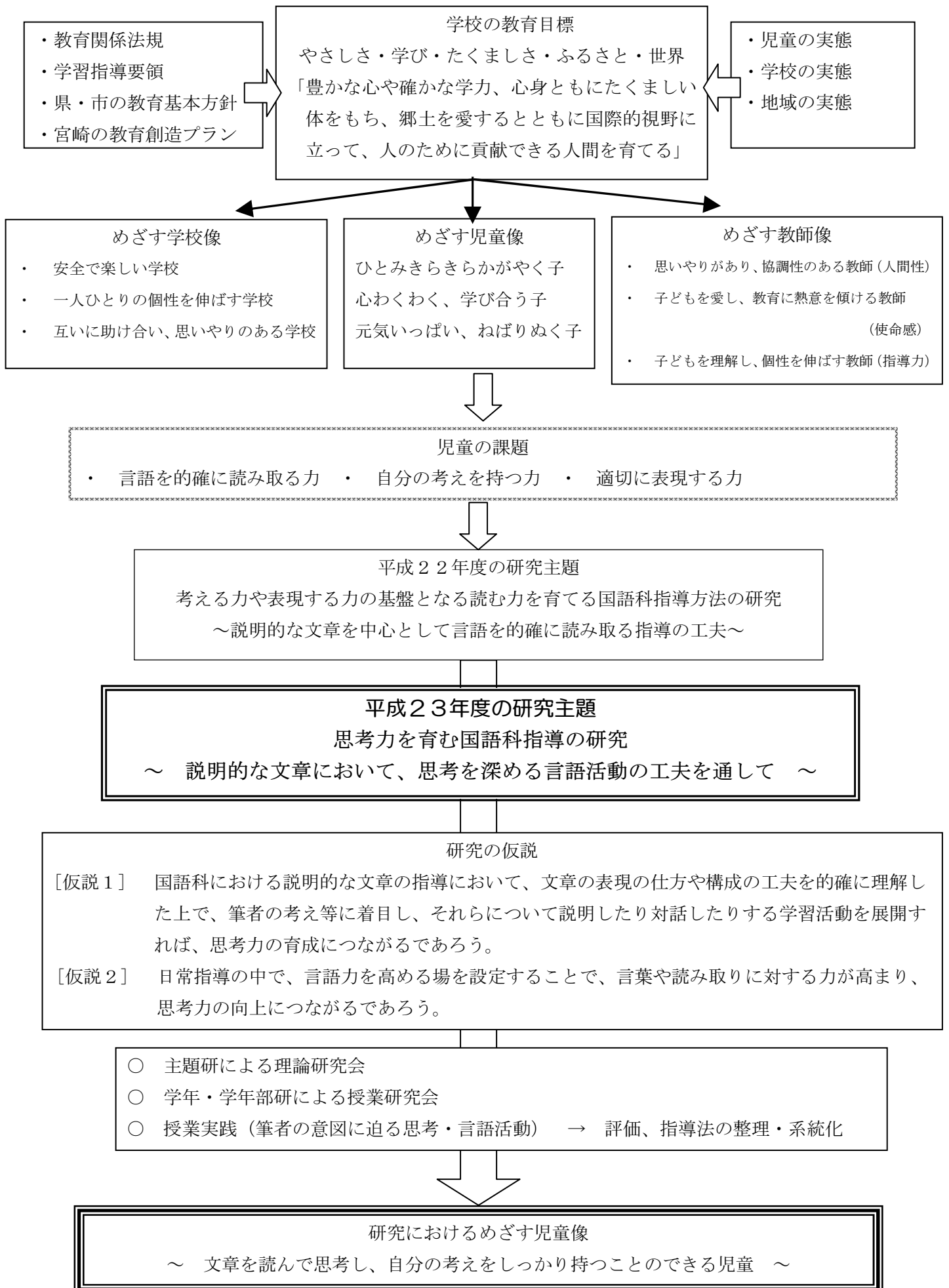
2 「言語活動」とは

言語活動には、記録・説明・報告・紹介・感想・討論・対話などの言語様式がある。本研究では、「説明的文章の書かれ方や筆者の考え等」について思考したことを深めることを目的として、言語活動を位置づけている。そのような趣旨から、言語様式については、説明と対話に絞って研究を進めていくこととする。それぞれの定義については、以下の通りとする。

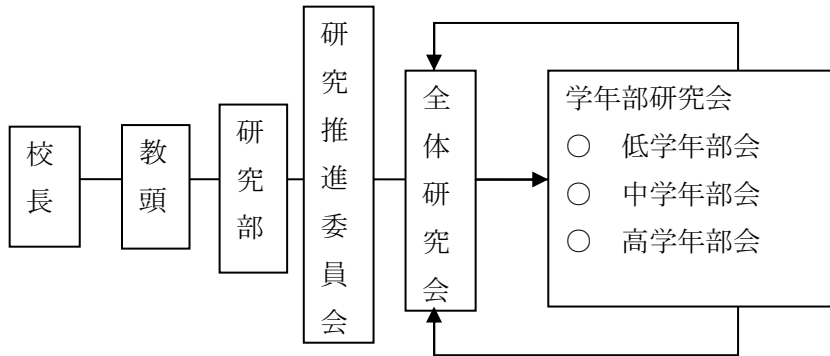
【説明的言語活動】 … 問題解決の結果や過程で、分かったことや考えたことなどを、言葉や図などを用いて書いたり話したりする活動

【対話的言語活動】 … 互いの意見・認識・考えを出し合い、類似している部分を認めたり、違いについてさらに話し合ったりしながら意見を交わす活動

VI 研究の全体構想



VII 研究の組織



VIII 研修計画

月	日	曜	会の形態	研修内容
4月	13日	水	全体研究会	研究主題・研究の方向性・研究組織等話し合い
5月	11日	水	全体研究会	研究主題・副題、指導案形式、授業外での取組、研究協議題等提案 授業者決定
	19日	木	全体研究会・学年部研究会	教材研究の方法等理論研究、訪問時の授業場面の話し合い
	25日	水	学年・個人研究	指導案作成
	26日	木	学年・個人研究	指導案作成
6月	1日	水	学年部別研究会	集中授業指導案検討
	3日	木	学年部別研究会	集中授業指導案検討
	8日	水	学年部別研究会	指導案互検
	15日	水	学年部別研究会	事前授業研究会・訪問準備・確認
	22日	水	学年部別研究会	事前授業研究会・訪問準備・確認
	23日	木	学校訪問	第一回授業研究会・事後授業研究会・全体研究会
	29日	水	全体研究会	第一回授業研究会のまとめと方向性の整理
7月	6日	水	三校合同研修会	
8月	19日	金	三校合同研修会	
9月	7日	水	全体研究会（理論研）	教材研究・指導方法等理論研究会
	21日	水	学年部別研究会	教材研究
	28日	水	学年部別研究会	教材研究
11月	2日	水	学年部別研究会	教材研究・指導案検討
	8日	火	三校合同授業研究会	
	30日	水	学年部別研究会	教材研究・指導案検討
12月	7日	水	学年部別研究会	第二回授業研究会・事後授業研究会
1月	11日	木	全体研究会	授業研究会のまとめ・研究紀要作成提案
2月	1日	水	学年部別研究会	研究紀要作成
	15日	水	三校合同研修会	
	22日	水	学年部別研究会	研究紀要作成
3月	14日	水	全体研究会	次年度の研究について話し合い

